

第3期中期目標期間終了時に見込まれる
(令和元年度～令和6年度)
公立大学法人福井県立大学業務実績評価書

令和5年8月

公立大学法人福井県立大学評価委員会

目 次

本評価の位置づけ	1
I 評価結果	1
1 全体評価	1
2 分野別評価	2
II 項目別評価	6
新学部・新学科の創設	6
教育	6
研究・地域貢献	7
国際化・情報発信	8
業務運営	8

《本評価の位置づけ》

本評価は、公立大学法人福井県立大学評価委員会が、地方独立行政法人法第78条の2第1項の規定に基づき、第3期中期目標期間終了時に見込まれる法人が中期計画に基づき行った業務実績を評価するものである。

評価に当たっては、中期計画で取り組んだ9項目を分野別に、法人からの聴き取り等を参考に、法人が行った自己点検・評価を基にその妥当性の検証と評価を行った。

I 評価結果

1 全体評価

第3期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に対する評価結果は次のとおりである。

目標達成に向けて計画の実施に努めており、**概ね計画どおり達成した**と判断される。取り組んだ9項目の評価については、次のとおりである。

「計画を上回って実施している」	1 計画
「計画を順調に実施している」	7 計画
「計画を十分に達していない」	1 計画

特に評価できる点は、次のとおりである。

- ・ 県内企業経営者等を招いた講義や内定者就職活動報告会等により、全国平均を上回る高い就職率を維持、県内就職率は50.1%（R元年～R4年平均）を確保した点。福井県にとって重要である県内への就職割合において、目標値を上回った点について評価できる。

2 分野別評価

1 のとおり、第3期中期計画を概ね計画どおり進めたと認められるが、第3期中期計画の進行状況を踏まえた評価委員会の提言は、次のとおりである。

新学部・新学科の創設

- ・次世代の地域リーダーを養成する新学部（文系新学部）の開設について、中期計画より遅れている。いろいろ事情もあったと思うが、今後の取組みに期待したい。
- ・恐竜学部の開設、次世代の地域リーダーを養成する新学部（文系新学部）の開設が今後の大きな目玉となる。恐竜学部については、令和4年度基本設計、今年度実施設計となっており順調に進んでいる。また、文系新学部は、有識者会議の実施、今後は、学部構想の策定を進めていく予定だと思う。今後も開設に向けて頑張りを期待する。

教育

- ・博士後期課程の学生には社会人入学している者も多く、社会人との兼合いから修了年限内での修了が難しいことも考えられる。研究科の先生方と大学の協力で修了年限内で修了できるよう努力いただきたい。
- ・環境に対する配慮が大学として大事になってきている。次期中期計画においてテーマとなってくると考える。
- ・社会人の学生の受け入れが伸び悩んでいるようである。社会人が勉強できる機会を増やすことは今後関心が高くなると思う。社会人にどのようにアピール、宣伝していくかが重要である。
- ・LGBTQの対応については道半ばではと考える。今後、トイレなど配慮が必要になってきており、今後の取組みに期待したい。

研究・地域貢献

- ・女性研究者の割合について次期中期計画での明記が必要。総合大学で看護学部がある場合、女性研究者の割合が高めにで
てくるため、学部ごとに割合を検討してもらいたい。
- ・研究の申請率が伸びてきているのは、とてもいいことである。採択率の向上は難しいところもあると思うが、申請率が伸
びてくれば、採択数は上昇していくと考える。今後も申請数の向上に期待する。
- ・今後、大学で生成 AI の運用が問題になってくる。ガイドラインの設定など、今後の取組に期待する。

国際化・情報発信・業務運営

- ・情報発信の分野は、達成指標を達成しており積極的に取り組んでいることがみえ評価できる。
- ・情報発信についてしっかりやっていると思う。今後も全国版のランキングなども活用し、アピールしていただきたい
い。
- ・コミュニケーションマークがホームページなどで目にやきつくようなものにするなど、アピールを期待する。
- ・コロナの影響で、学生の海外留学の割合が低くなっているのは非常に残念であり、今後の取組に期待していきたい。
- ・チューター制度について他の大学ではホームページに掲載などして PR している。チューター制度の PR については、今後
期待していきたい。
- ・自己収入比率目標設定 35%とされており、目標を達成していることは大変すばらしいことである。しかし、設定目標の
妥当性も重要であり、来年度の中期計画策定に向けて検証が必要である。

■中期計画分野別評価結果

中期計画分野	項目数	評 価 結 果			
		S 計画を上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分に 実施していない	C 計画を 実施していない
新学部・新学科の創設	1		1		
教 育	3	1	2		
研 究	1		1		
地 域 貢 献	1		1		
国 際 化	1			1	
情 報 発 信	1		1		
業 務 運 営	1		1		
計	9	1	7	1	

■中期計画分野別評価結果

評価項目（中期計画）		法人 評価	委員会 評価
I	新学部・新学科の創設	A	A
II	1) 教育内容、実施体制の強化	A	A
	2) 多様な学生の受入れ	A	A
	3) 学生への支援	S	S
III	研究	A	A
IV	地域貢献	A	A
V	国際化	A	B
VI	情報発信	A	A
VII	業務運営	A	A

分野		法人の自己評価	各年度における評価結果					概要	評価委員会の評価
			R1	R2	R3	R4			
I 新学部・新学科の創設		法人の自己評価	S	A	S	S	<p><これまでの実績 (R1-4) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年4月に「創造農学科」を開設した。農業経営者等の特任講師による実習等、実践から農を幅広く学ぶ教育を実施した。 ・令和4年4月に「先端増養殖科学科」を開設した。ICTやゲノム編集技術を取り入れた授業等、水産増養殖の先端技術を学ぶ教育を実施した。 ・恐竜学部（仮称）について、有識者会議の開催、整備基本方針・基本設計の策定、県立恐竜博物館や勝山市との連携内容を協議した。 ・次世代の地域リーダーを養成する新学部（文系新学部）について、有識者会議を設置し、新学部の方向性について検討した。 <p><今後の取組 (R5-6) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年4月、看護系の博士後期課程として県内初となる「健康生活科学研究科」を開設した。看護学と社会福祉学を融合し、ウェルビーイングの向上の探究を目指す。 ・恐竜学部（仮称）の令和7年4月開設に向け、文部科学省への認可申請、学部棟の実施設計および建設工事など、開設準備を進める。 ・次世代の地域リーダーを養成する新学部（文系新学部）の開設に向け、有識者会議の提言に基づく構想を策定するとともに、文部科学省への申請準備を進める。 	A	
		評価委員会の評価（外部評価）	A	A	A	A			
II 教育	1 教育の内容、教育実施体制の強化	法人の自己評価	A	A	A	A	<p><これまでの実績 (R1-4) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・創造農学科および先端増養殖科学科において、地元経営者等による特任講師制度を導入し、実践的な教育を推進した。 ・新型コロナの感染状況等にに応じた遠隔授業を実施したほか、ICTを活用した看護実習シミュレーションシステムを整備するなど対面とオンラインの双方の利点を活かした質の高い学修機会の確保を図った。 <p><今後の取組 (R5-6) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済学部および生物資源学科にも特任講師制度の導入拡大を進める。 ・文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の令和5年度の認定をめざすとともに、体系的な数理・データサイエンス・AI教育を提供する。 	A	
		評価委員会の評価（外部評価）	A	A	A	A			
II 教育	2 多様な学生の受入れ	法人の自己評価	A	A	A	A	<p><これまでの実績 (R1-4) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合型選抜や一般選抜における面接試験を実施する等、人物評価を重視した入試制度への改革を進めた。 ・創造農学科に社会人等を対象とした3年次編入試験を導入するとともに、先端増養殖科学科の総合型選抜において本学初となる「地域枠」を設定した。 ・受験生の利便性向上を図るインターネット出願システムの運用を新たに開始した。 ・高校の探究科等への出張講義や開放講義の実施等、高大連携を強化した。 <p><今後の取組 (R5-6) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人等を対象とした短期ビジネス講座や看護・医療職リカレント講座の開催等により、社会人等の受入れを促進する。 	A	
		評価委員会の評価（外部評価）	A	A	A	A			

分野		法人の自己評価	各年度における評価結果				概要	評価委員会の評価	
			R1	R2	R3	R4			
II 教育	3 学生への支援	S	法人の自己評価	A	S	S	S	<p><これまでの実績 (R1-4) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内企業経営者等を招いた講義や内定者等による就活体験報告会の開催等により、全国平均を上回る高い就職率を維持し、県内就職割合は50.1% (R1~R4平均) を確保した。 ・コロナ禍における学生の生活状況をアンケート等により把握し、経済的に困窮している学生等を対象とした大学独自の授業料減免等を実施した。 ・学術研究活動や課外活動等で活躍した学生を顕彰する「つぐみ賞」を創設した。 <p><今後の取組 (R5-6) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内企業と連携したPBL教育やインターンシップを行い、学生が県内企業を深く知る機会を創出する。 ・創造農学科および先端増養殖科学科の学生の県内就職先を確保するため、県内事業者や行政等と連携し、対応策を検討する。 ・県内外 (地域別・職域別) の同窓会を設置し、OB・OGのネットワークを拡大を図る。 	S
			評価委員会の評価 (外部評価)	A	S	S	S		
III 研究		A	法人の自己評価	A	A	A	A	<p><これまでの実績 (R1-4) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井県の持続可能性を支える研究テーマを学内公募し、社会実装に向けた研究を推進 ・農水産物の県産化等をめざす全学的な研究プロジェクトを推進した。 ・大学発ベンチャー企業設立支援制度を創設し3社の設立を支援した。 <p>〔 マイクロブケム合同会社 (R2.2月)、県大アグリ (R2.12月) (株)恐竜総研 (R3.12月) 〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ステップアップ補助金等の支援を行い、科研費等の申請を促進した。(R1~R4平均申請率 81.9%) ・福井学や各学部等での学びに関するブックレットを10巻発行し、本学の研究成果を県民に還元した。 ・国内最大の水産研究・教育機関「水産研究・教育機構」と包括協定を令和4年3月に締結した。 <p><今後の取組 (R5-6) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題の解決につながる研究を全学的に推進する。 	A
			評価委員会の評価 (外部評価)	B	A	A	A		
IV 地域貢献		A	法人の自己評価	S	A	A	A	<p><これまでの実績 (R1-4) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な団体等とのネットワークを拡大し、共同研究や人材交流で連携を強化した。 <p>あわら市と包括的連携協定を締結 (R1.12月)</p> <p>自治体やJA、農家等が参加する「ふくい農力アップ!ネットワーク」を設立 (R1.12月)</p> <p>かみなか農楽舎・若狭町と「農」を担う人材育成の協定を締結 (R2.1月)</p> <p>地域連携本部と東京大学地域未来社会連携研究機構が連携協定を締結 (R4.7月)</p> <p>本学と越前市、NTT西日本との間で、ICTを活用した健康増進に関する連携協定を締結 (R4.9月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン等を活用した公開講座、自治体・団体等と連携したフォーラムの開催等、県民の学びの応援や、研究成果を地域へ還元する活動を展開した。 <p><今後の取組 (R5-6) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県や金融機関と連携し、大都市圏の中核人材を対象に“働きながら学ぶ”地方創生プロジェクトを開始し、社会人の受入れを促進する。 	A
			評価委員会の評価 (外部評価)	S	A	A	A		

分野	法人の自己評価	各年度における評価結果					概要	評価委員会の評価
			R1	R2	R3	R4		
V 国際化	A						<p><これまでの実績 (R1-4) ></p> <ul style="list-style-type: none"> 新たに5つの大学と学術交流協定を締結し交換留学等を実施したほか、海外留学の助成制度を拡充する等、学生の留学機会を促進した。 <p>〔「学術交流協定締結校」〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 浙江工商大学 (中国・H31.4月)、チチェスターカレッジ (イギリス・R1.5月) トロント大学 (カナダ・R1.5月)、山東師範大学 (中国・R4.3月) 大邱カトリック大学校 (韓国・R5.3月) <p><今後の取組 (R5-6) ></p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナ以降、オンライン活用による短期語学研修や海外協定校との交流を実施した。 海外協定校や日本語学校等に対し当学を積極的にPRし、留学生の受入れを進めたほか、ワールドカフェを拠点に英語による講座等、様々な支援を実施した。 <p><今後の取組 (R5-6) ></p> <ul style="list-style-type: none"> 教職協働による国際交流、留学生支援を推進するため、国際センター (仮称) の開設に向けて準備を進める。 	B
		法人の自己評価	A	A	A	A		
		評価委員会の評価 (外部評価)	A	B	A	B		
VI 情報発信	A						<p><これまでの実績 (R1-4) ></p> <ul style="list-style-type: none"> 新たにSNSを活用した情報発信を開始するなど、積極的な広報を行い、メディア掲載・放送件数は、目標値を大幅に超える481件 (R1~R4平均) を達成した。 UIデザインを活用し、オリジナルのグッズを制作・販売するなど、県大のブランド化を推進した。 本学創立30周年を記念した式典やシンポジウムを令和4年10月に開催した。 <p><今後の取組 (R5-6) ></p> <ul style="list-style-type: none"> 積極的なプレスリリースをはじめ、志願者確保、外部資金獲得等につながる積極的な広報を展開していく。 	A
		法人の自己評価	A	A	A	S		
		評価委員会の評価 (外部評価)	A	A	A	S		
VII 業務運営	A						<p><これまでの実績 (R1-4) ></p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナ感染防止については、3回の学内ワクチン接種の実施や対策会議の開催による臨機応変な対策を行い、学内での新規感染者を抑制した。 クラウドファンディングによる資金獲得や科研費等の外部資金獲得など自己財源の確保に努めた。 <p><今後の取組 (R5-6) ></p> <ul style="list-style-type: none"> 徹底した経費節減策や新たな財源の確保策を検討し、抜本的な収支改善に着手する。 令和5年4月に情報センターを開設し、教職協働により学内情報システムネットワークの最適化を推進する。 	A
		法人の自己評価	A	A	A	A		
		評価委員会の評価 (外部評価)	A	A	A	A		

公立大学法人福井県立大学評価委員会 委員名簿

氏 名	職	備 考
しらす としろう 白須 敏朗	一般社団法人大日本水産会相談役	委員長
てしま まさこ 豊嶋 雅子	フクビ化学工業(株)顧問	
なかの ひろみ 中野 裕美	豊橋技術科学大学副学長	
ふるたに きよかず 古谷 清和	敦賀気比高等学校長	
やまもと のりこ 山本 則子	東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻 高齢者在宅長期ケア看護学／緩和ケア看護分野 教授	

(50 音順)